

# 自社開発 vs 委託先管理ツール導入 比較検討のポイント

～自社開発とツール導入のメリット・デメリットを比較～



# 目次

1. はじめに	03
2. 委託先管理に求められる機能	05
3. 自社開発のメリット・デメリット	06
4. 委託先管理ツール導入のメリット・デメリット	08
5. コスト比較：初期費用・運用費用・見えないコスト	10
6. 意思決定のポイント	12
7. まとめ	13

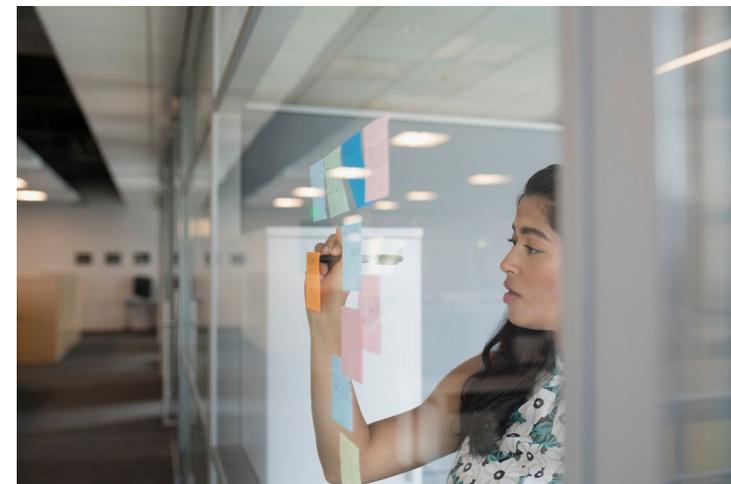
# 1. はじめに ①ツールの重要性

## 委託先管理におけるツールの重要性

複数の委託先と取引するケースが増える中、セキュリティチェックやリスク管理を適切に行うことが求められています。

Excelをメールで送付するなど、個別に手作業で管理を行うのは非効率であり、また、チェック漏れや対応の遅れが情報漏えいなどの重大なリスクにつながる可能性があります。

そのため、**管理業務を自動化し、確実かつ効率的にリスクを可視化できるツールの導入が重要です。**



## 1. はじめに ②比較の必要性

### なぜ「自社開発」と「ツール導入」を比較する必要があるのか？

ツール導入を検討する際、「自社開発」するか「外部ツールを導入」するかは重要な経営判断となります。自社開発なら柔軟なカスタマイズが可能ですが、開発コストや保守負担が増加し、導入までに時間がかかります。一方、外部ツールの導入では迅速に運用を開始できるものの、機能に業務を合わせていく必要があります。

コスト、運用負担、セキュリティなどを総合的に判断し、自社のリソースと課題に適した方法を選択することが重要です。本資料では、比較検討のポイントとなる情報をご提供します。



## 2. 委託先管理ツールに求められる機能とは

委託先管理をツールで行う場合、必要な機能は以下の3つとなります。

### 1. チェックリストの送信・回収・集計

委託先にセキュリティチェックリストを送付し、回答を効率的に回収・管理します。手作業での管理では発生しやすい送信漏れや回答未回収を防ぎ、進捗をリアルタイムで把握できるようになります。

### 2. リスク評価とスコアリング

回収した回答内容をもとに、各委託先のリスクレベルを数値化し、優先順位を可視化します。リスクが高い委託先に迅速に対応できます。

### 3. ドキュメント管理と履歴管理

チェックリストの過去データを一元管理します。簡単に履歴を確認でき、監査対応にも役立ちます。



### 3. 自社開発のメリット・デメリット ①メリット

まず、自社開発のメリット・デメリットについて解説します。主なメリットは以下の3点です。

#### ■ 自社ニーズに完全にフィットするカスタマイズが可能

独自の業務フローに合わせて、必要な機能を自由に設計できます。

業界特有の要件や、他システムとの連携も自社の裁量で対応できるため、業務効率を最大化することが可能です。

#### ■ 社内リソースを活用できる

既存のIT部門やエンジニアリソースを活用し、開発を内製化できます。外部ツールの導入費用が削減できるほか、開発過程で得たノウハウが社内に蓄積できます。

#### ■ 自社内でのデータ管理とセキュリティ制御

データを社内環境で一元管理でき、自社のセキュリティポリシーに基づいた運用が可能です。外部に情報を預けることなく、プライバシー管理を徹底できる点も利点です。



### 3. 自社開発のメリット・デメリット ②デメリット

続いて、自社開発におけるデメリットについて解説します。主なデメリットは以下の3点です。

#### ■ 保守コストや運用リソース確保の必要性

ツールは開発すれば終わりではなく、保守・運用に継続的な人的リソースが必要です。安定稼働やトラブル対応には専用の人的リソースと予算が必要となり、長期的な負担が避けられません。担当者の異動や退職によってノウハウが失われると、システムの維持管理に支障をきたす場合もあります。

#### ■ 開発期間の長期化

要件定義から設計、開発、テスト、リリースまでは数カ月以上かかります。その間に業務要件が変わる可能性もあります。

#### ■ アップデートや法規制対応の遅れ

最新の法規制や業界標準に対応するには、追加開発やシステム改修が必要です。対応が遅れた場合、コンプライアンスリスクを抱える可能性があります。



## 4. 委託先管理ツール導入のメリット・デメリット ①メリット

次に委託先管理ツール導入のメリット・デメリットについて解説します。主なメリットは以下の4点です。

### ■ 短期間での導入や即時運用が可能

クラウドベースのツールであれば、設定完了後すぐに運用を開始できます。短期間で管理業務の効率化を実現できます。

### ■ コストの透明性

初期費用と月額費用が明確で、予算管理がしやすいことが特徴です。  
自社開発と異なり、開発途中で予期せぬコストが発生するリスクもありません。

### ■ セキュリティ機能・法規制対応の最新化

ツール提供会社が法改正や最新のセキュリティ基準に基づいて機能をアップデートします。社内で追加開発を行うことなく、常に最新の安全性を保つことが可能です。

### ■ 運用保守をツールベンダーに委託可能

システムの保守・障害対応はツール提供会社が行うため、社内リソースを最小限に抑えた運用が可能です。  
自社で専任のシステム担当者を配置する必要がなく、人的コスト削減にもつながります。



## 4. 委託先管理ツール導入のメリット・デメリット ②デメリット

委託先管理ツール導入のデメリットについても解説します。主なデメリットは以下です。  
ただし、事前に運用方針を明確にすることで解消できる課題です。

### ■ 一部カスタマイズの制限

標準機能外のカスタマイズには制約がある場合があります。  
ただし、多くのツールは一般的な委託先管理業務に必要な機能を網羅しており、  
導入前に要件を明確にすることで、業務にフィットした運用が可能です。

### ■ 初期費用が必要

導入時には初期費用が発生しますが、これはシステム設定や運用環境の整備に伴う  
ものです。業務効率化や人的コスト削減により、投資回収が見込めるケースが多く、  
中長期的にコスト削減につながることを期待できます。



## 5. コスト比較 ①初期費用・運用費用

自社開発とツール導入では、コスト構造に大きな違いがあります。  
初期費用や運用費用だけでなく、将来的に発生する「見えないコスト」も考慮することが重要です。

### ■ 初期費用: 開発費用 vs 導入費用

自社開発は要件定義、設計、開発に多額の初期費用が発生し、プロジェクトが長期化するほどコストが膨らみます。

一方、ツール導入は必要な機能があらかじめ整っており、比較的低コストで導入が可能です。  
また、導入時の設定やトレーニングも提供会社のサポートを活用できるため、社内負担を抑えられます。

### ■ 運用費用: 社内リソース vs サブスクリプション費用

自社開発の場合、システム保守や運用に社内リソースを割く必要があり、担当者の人件費や定期的なメンテナンス費用が継続的に発生します。  
一方、ツール導入では月額費用に運用サポートが含まれることが多く、予算を明確に管理できます。



## 5. コスト比較 ②見えないコスト

### ■ 見えないコスト

システム運用中には、想定外のコストが発生することもあります。

例えば、自社開発では障害対応やセキュリティパッチ適用、法規制変更への対応に追加の開発工数が必要です。

ツール導入の場合は、これらのアップデートがベンダーによって迅速に行われるため、社内負担やコストを抑えやすくなります。



## 6. 意思決定のポイント

「自社開発」か「ツール導入」かを判断する際には、コストや導入期間だけでなく、運用体制や将来的な拡張性を考慮することが重要です。意思決定を行う際の主なポイントは以下の4点です。

### 💡 初期費用 vs 運用費用

自社開発は**初期費用はかかりませんが、運用コストが膨らむリスクがあります。**ツール導入は**初期費用がかかりますが、短期間で業務効率化を実現**できます。

### 💡 開発期間 vs 即時導入

自社開発は要件定義からリリースまで数カ月から1年以上かかることがあり、その間の**業務負担が継続する**リスクもあります。対してツール導入は、導入準備が整えば短期間で運用を開始できるため、**現場の負担を最小限に抑えながら早期の効果を得られます。**

### 💡 柔軟性 vs 信頼性

自社開発は、独自の業務フローに合わせた柔軟なカスタマイズが可能ですが、**仕様変更や追加開発には時間とコストが必要**です。ツール導入では標準機能を活用することで、多くの企業で実績のある**信頼性の高い運用**が可能です。

### 💡 自社リソースの余力

自社開発では、**開発後も保守や障害対応のリソース確保が不可欠**ですが、ツール導入ではサポートを活用できるため、**限られたリソースでも安定した運用を実現**できます。

## 7. まとめ

自社開発とツール導入のどちらが最適かは、**コスト、導入期間、運用体制など、自社の状況やニーズに応じて判断することが必要**です。後悔のない選択のためには、自社のリソースや業務負担を考慮し、中長期的な視点でコストと効果を見極めることが重要です。

### ■ 次ステップのご提案

より具体的な検討を進めるために、以下のアクションをおすすめします。



**無料相談**：現在の課題やニーズに基づいた最適な解決策をご提案します。

**デモ依頼**：実際の操作画面を確認しながら、導入後の業務イメージを把握いただけます。

**資料請求**：機能詳細をまとめた資料をお送りいたします。

意思決定に迷われた際は、ぜひお気軽にご相談ください。

最適な委託先リスク管理体制構築に向けて、貴社に寄り添ったご提案をいたします。



# 委託先リスク管理ガイド



委託先リスク管理の手順を確認できる「委託先リスク管理ガイド」  
を無料でダウンロードいただけます。

こんな方におすすめです

- ✓ 委託先リスク管理に興味がある方
- ✓ 委託先リスク管理の概要を学びたい方
- ✓ 委託先リスク管理の具体的な手順や方法を知りたい方

▶ ダウンロードは[こちら](#)



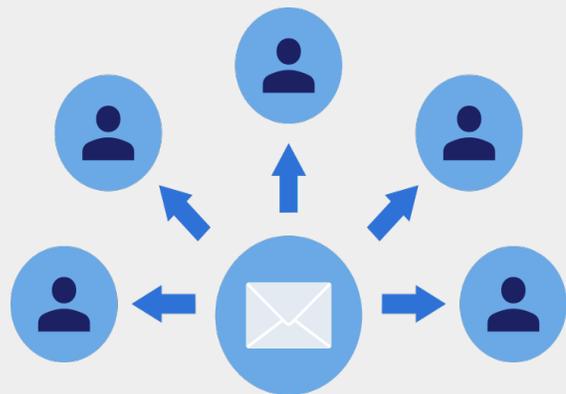
QRコードからも  
アクセスいただけます

# 委託先リスク管理ツール「VendorTrustLink」

VendorTrustLinkは、委託先や取引先に関連するリスク管理を一元化し自動化するツールです。

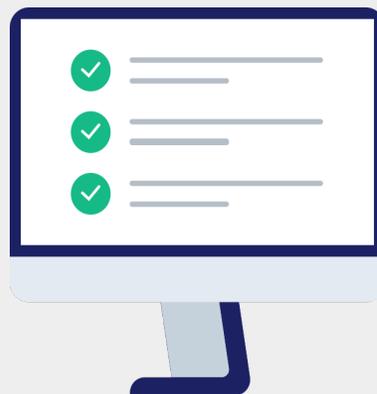
委託先へのチェックシートの送信から結果の確認までの工程を自動化。面倒な作業をDX化することでコア業務や積極的なリスク対策に集中できます。

## STEP 1



チェックシートの自動送信

## STEP 2



プラットフォーム上で回答

## STEP 3



結果をグラフで確認

# お問い合わせ

委託先リスクを減らして、ビジネスに安心を

導入に関するご相談・ご質問がある方はお気軽に  
お問い合わせください。

株式会社アトミテック

企画営業部

TEL 050-3775-7632 FAX 050-3730-9023

E-mail: [vc-sales@atomitech.jp](mailto:vc-sales@atomitech.jp)

Web: <https://atomitech.jp/vendortrustlink/>

**ATOMITECH**